

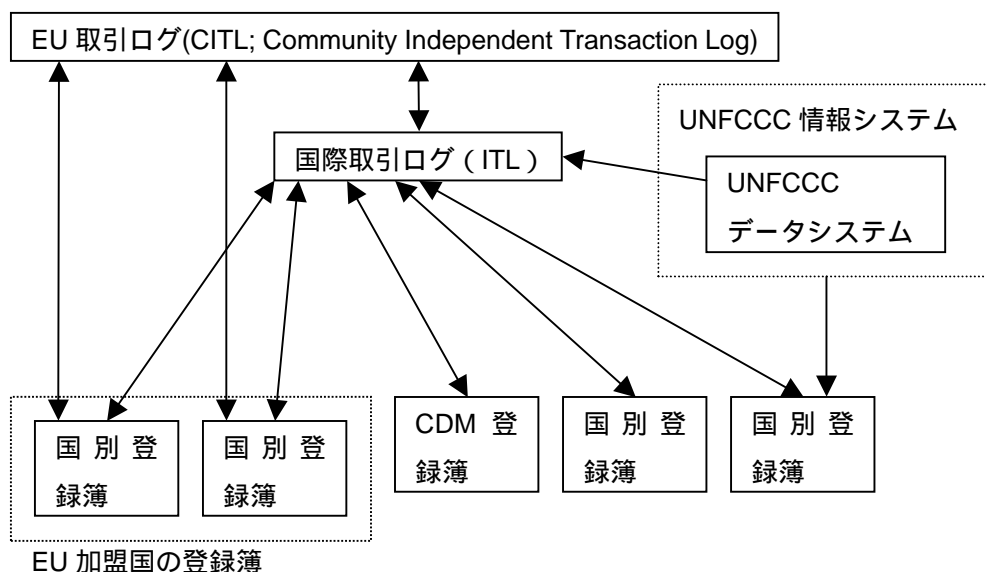
これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	Carbon Market Infrastructure: Implementing the International Transaction Log カーボンマーケットのインフラ：国際取引ログ（ITL）の実施
主催	UNFCCC 事務局
日時	2006 年 11 月 9 日 13:15 ~ 14:45
主要討論者	Vitaly Matsarski 氏（UNFCCC 事務局） Ronald Velghe 氏（Trasys） Toshiaki Nagata 氏（UNFCCC 事務局） Andrei Marcu 氏（IETA）
傍聴者	約 50 名
目的	排出量取引を円滑に行うためには、カーボンマーケットのインフラが整備されている必要がある。本サイドイベントでは、事務局がカーボンマーケットにおいて重要な役割を果たす国際取引ログ（ITL）の進捗状況に焦点をあてて、関係者等かの報告を行い、ITL のカーボンマーケットに与える影響について議論する。
発表の概要	<p><b>Vitaly Matsarski 氏（UNFCCC 事務局）：登録簿システム - カーボン取引のインフラ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登録簿システム：京都議定書 7 条 4 項に基づいて構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>登録簿 = 取引を実施。その整備は京都メカニズム参加のための要件。</li> <li>ITL = 全ての登録簿を繋げて取引をチェックするためのハブ</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>ITL の機能： <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての登録簿を繋げる</li> <li>取引について京都メカニズムのルールに合致しているか否かを確認する</li> <li>定期的に ITL の記録と登録簿の記録を調整する</li> </ul> </li> <li>ITL の実施：外部の業者 2 社を選定し契約済み。2006 年 12 月に ITL ソフトウェアを配備し、2007 年 4 月までに各登録簿と ITL を繋ぐための初期設定を行う。</li> <li>EU-ETS との関係：</li> </ul>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

**Ronald Velghe 氏 (Trasys) : Trasys の任務と実施状況**

- Trasys の概要 : 1981 年設立、ベルギー中心に 8 都市で展開、[www.trasys.be/](http://www.trasys.be/)
- FCCC の ITL : Trasys は、ITL のソフトウェア及びハードウェアの開発・実施・サポート等を行う。実際に運用が開始されてからは、そのサポート業務を LogicaCMG に委託。
- 非常にタイトなスケジュールの中、タイムゾーンが異なる 37 の国別登録簿を繋ぐのは困難な任務。



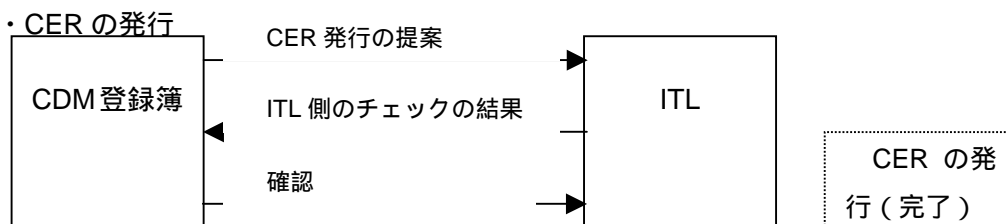
- FCCC の ITL は、2007 年 4 月運用開始を目指して、国別登録簿の初期設定のサポートを行う等の準備を進める。

**Ronald Velghe 氏 : LogicaCMG の任務と実施状況**

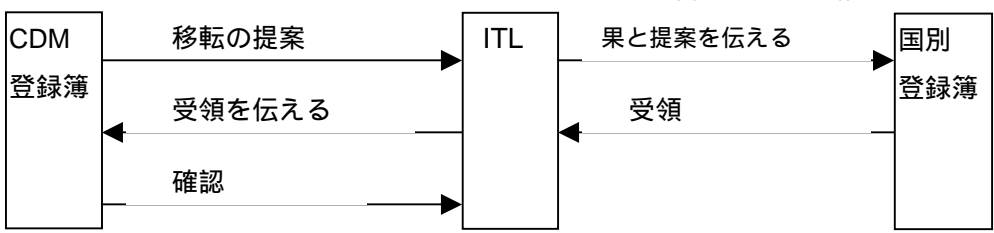
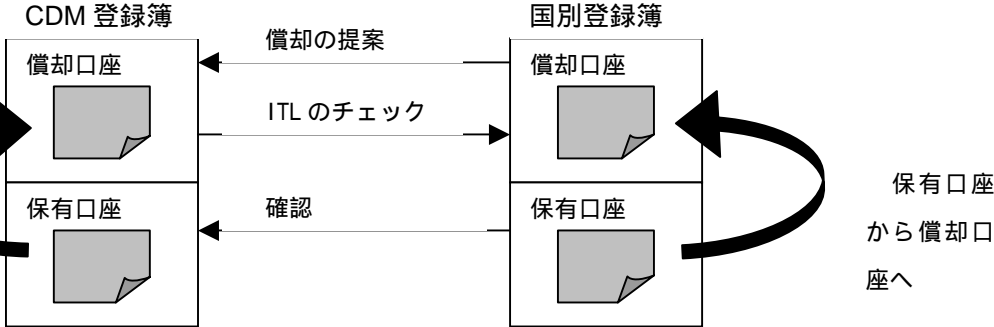
- LogicaCMG の概要 : 41 カ国で展開する IT 企業
- FCCC の ITL : LogicaCMG は、ITL の運用とサービスデスク業務を行う。

**Toshiaki Nagata 氏 (UNFCCC 事務局) : CER の取引**

- 取引と当該取引に係る登録簿と ITL とのやり取りについて、例を用いて説明。
- 取引の流れ
  - CDM 登録簿に CER 発行
  - CER を国別登録簿へ移転
  - CER を国別登録簿内で償却



これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>・ CER を国別登録簿へ移転</p>  <p>ITL 側のチェック結果と提案を伝える</p> <p>・ CER を国別登録簿内で償却</p>  <p>償却口座へ</p> <p>保有口座から償却口座へ</p> <p><b>Andrei Marcu 氏 (IETA): 国際取引ログ (ITL) - ビジネスの観点から</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ITL の重要性を強調：ITL がなければ、取引は成立しない キャッシュフローが滞るといった状況に陥る。</li> <li>・ EU-ETS への影響：ITL が運用されないと市場に出回る CER/ERU 量（供給量）が減る 遵守が困難になる等の影響が及ぶ。</li> <li>・</li> </ul>
<p>質疑応答</p>	<p>Q1. (ポイントカーボン) EU-ETS の CILTR 等の地域的な ITL と ITL を繋ぐ際に、何らかのトラブルが発生する危険性があるのではないか。</p> <p>A1. (Trasys) 繰り返し確認を行い、両方のシステムを統合することで、安全性が保たれる。</p> <p>Q2. (IETA) 京都メカニズムの参加要件を満たしているから、ITL を通じて取引が可能であるとの判断は、どのように行うのか。</p> <p>A2. (UNFCCC) 遵守委員会を通じて行われる遵守手続と ITL・CDM 登録簿は異なるデータベースに基づいて運用されている。従って、遵守手続のデータ（参加要件を満たしているか否か等）は、ITL のデータベースに迅速に送られ、それに基づいて当該取引の ITL 側でのチェックを行うこととなる。つまり、参加要件を満たさない締約国からの CER 発行の提案等について、ITL は拒絶することとなる。</p> <p>Q3. (トレーダー) ITL を介して CDM 登録簿から国別登録簿へ移転されたクレジットの取引 (Secondary Transaction) は、どのように管理するのか。</p> <p>A3. (UNFCCC) 国別登録簿内の保有口座の CER 等をいったん償却すると、当該ユニットはいかなる取引も行うことが出来なくなる。ITL は、全てのユニットの全ての動き (取引や償却等) を記録している。ITL は、国別登録簿の保有口座 (holding</p>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。  
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>account) の動向を追跡しているが、国別登録簿内の事業者間の取引は関知しない。</p> <p>Q4. (IETA) 取引の情報は、どのように公表され、情報の機密性はどのように確保されるのか。</p> <p>A4. (UNFCCC) COP 決定に従って情報公開等が行われるが、方法の詳細は今後更なる議論が必要といえる。情報の一つとして、取引対象となる CER がどこの国のどのプロジェクトで発生したものであるかという詳細な情報提供される。</p> <p>Q5. (コンサルタント) ユニラテラル CDM プロジェクトの場合、非附属書 国の特定の会社に CER が発行され、その後附属書 国の会社の口座に当該 CER は動かすことができるか。</p> <p>A5. (UNFCCC) ITL は CDM プロジェクトに係る手続の一部に関わるものであり、CDM 登録簿内の保有口座から国別登録簿への移転を指す。</p> <p>Q6. (非附属書 国関係者) 非附属書 国も ITL の情報を得ることが出来るのか。</p> <p>A6. (UNFCCC) 非附属書 国の DNA に対しても、様々な情報提供を行っており、ITL の情報も含まれている。</p>
資料	<p>&lt;会場配布資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プレゼンテーション資料は、 <a href="http://regserver.unfccc.int/seors/reports/events_list.html">http://regserver.unfccc.int/seors/reports/events_list.html</a> で入手可能。</li> </ul>

文責：森實順子（社団法人海外環境協力センター）

